



令和 3 年 7 月 30 日

令和 3 年度地域の元気応援プロジェクトを決定

広島大学は、本学の学術的な蓄積や教員・学生等の力を活用し、地域課題の解決や地域活性化などに貢献するため、令和元年度から「地域の元気応援プロジェクト」を行っています。

地域の元気応援プロジェクトとは、地域社会や地域経済の維持や活性化などの様々な課題に取り組んでいる団体から、自分たちだけでは解決が難しい活動テーマをいただき、教員・学生と地域の 3 者がチームを組んで調査・研究や実践活動などに取り組むものです。

令和 3 年度は、地域から 16 件の活動テーマを提案いただき、学生・教員とのマッチングを行った結果、12 件のプロジェクトチームが結成されました。いずれも地域の活性化に資するものとして、事業を採択しましたが、そのうち、新規申請が 7 件、令和元年度の採択プロジェクトからの申請が 5 件です。（助成額は、原則として 30 万円～50 万円）

本学では、専門性の高い先端的な研究とともに、その研究成果を地域課題の解決に活かす実践活動に取り組んでいます。

本事業においても、SDGs の目標 11 住み続けられるまちづくりをめざして、学生と教員が地域の方とともに実践活動に取り組むことで、地域の元気を少しでも盛り上げたいと考えています。

広島大学地域の元気応援プロジェクト紹介 URL

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/iagcc/ccc/ccc2>

【お問い合わせ先】

学術・社会連携部 地域連携部門 三戸
TEL:082-424-5871

令和3年度応募事業

広島大学地域の元気プロジェクト

Hiroshima University



令和3年7月30日
広島大学 学術・社会連携室

令和3年度 地域の元気応援プロジェクト 応募事業一覧

No	テーマ	地域団体名	教員		
	レモンと共生する島 賑わい創出の島づくり	せとだレモン祭実行委員会	人間社会科学研究科	准教授・富永	美穂子
	楽しゅう飲みん茶い	まほろばくろたに	人間社会科学研究科	准教授・伊藤	奈保子
	コロナ禍での持続可能な地域活動のための文化・情報基盤創生プロジェクト	土里夢創房 あぐり	先進理工系科学研究科	助教・佐々木 准教授・造賀 教授・餘利野	豊(責任者) 芳文 直人
	中山間地域と大学を結び、世代を超えた学びの拠点を作ろう	つくれば工房	統合生命科学研究科	准教授・彦坂	暁
	丸木位里と故郷・飯室 マップ作成、作品調査プロジェクト	プラットフォーム安芸飯室運営委員会	人間社会科学研究科	准教授・多田羅	多起子
	島地域活性化「学際融合」ドキュメンタリー映画プロジェクト	潮祭(https://shio-sai.net)	人間社会科学研究科 (国際共創学科)	助教・渠	蒙
	小原の憩いの場づくり「小屋のデザインプロジェクト」	NPO 法人ぷらっとほーむ小原	先進理工系科学研究科	教授・田中貴宏	
	三段峡ミュージアム構想	特定認定NPO法人三段峡ー太田川流域研究会（さんけん）	統合生命科学研究科	教授・中坪	孝之
	地域と大学が連携した湯来町における、オオサンショウウオの基礎生態調査と環境保全活動	NPO 法人湯来観光地域づくり公社	総合博物館	准教授・清水	則雄
	移住体験ツアーの開発 × とびしまライフ	とびしまライフ	産学連携推進部, スタートアップ推進部門	助教・Zollet Simona	
	「みんなの夢アイディア」の実現で「呉をワンダーランドに！」	呉自社商品開発協議会	人間社会科学研究科	准教授・川田	和男
	久比地区の水利用等住環境に関するサステナビリティの確立のための広島大学の瀬戸内拠点造り（水利用実践編）	一般社団法人まめな	先進理工系科学研究科	教授・小野寺	真一

地域の元気応援プロジェクトの制度概要

Hiroshima University

大学の資源を活用した地域との連携

令和元年度からスタートした「広島大学地域の元気応援プロジェクト」は、学生・教員・地域団体の3者でチームを組んで、地域から提案があった地域課題の解決や地域活性をめざす取組を、広島大学が支援するものです。
広島大学の地域との結びつきを大切にするという理念は、開学以来、一貫して変わることなく、国際化の展開とともに「地域に根差す大学」として様々な取組みをしています。

■応募対象者

広島大学の学生＋広島大学の教員＋地域団体等
(地域と学生・教員により、連携して提案することが必要)

■募集等の日程

- ・募集 4月
- ・マッチングイベント(地域と学生・教員の出会い) 6月
- ・審査会 7月(学生・教員・地域によるプレゼン)
- ・事業実施 8月～2月(7か月)
- ・報告会 3月

■事業予算・採用件数

全体予算 500万円

採用件数 10件 (1件30万円～50万円)程度

地域社会が抱える課題への取組

地域社会と大学の双方の活性化

- ◇地域の人たちだけでは、解決が難しい課題
↓
◇広島大学の学生・教員が地域と一緒に具体的な事業を提案
↓
◇学生・教員・地域で活動し、地域を元気にする

SDG s の目標 1 1

・住み続けられるまちづくりを

- 令和元年度以降の採択テーマ
- 1.安芸太田町 三段峡インバウンド
- 2.東広島市志和 地域の学びの拠点形成
- 3.呉市久比地区 持続可能な水資源確保
- 4.呉市中通 商店街の賑わい創出
- 5.呉市音戸 散策マップ制作
- 6.呉市音戸 地域の資源掘り起こし
- 7.三原市大和町 浅野家献上茶の復活
- 8.尾道市瀬戸田町 レモン祭り企画・運営

レモンと共生する島 賑わい創出の島づくり

せとだレモン祭 実行委員会

地元企業との
レモンを使った
商品開発

賑わい創出

レモン祭&瀬戸田
地域のPR活動

瀬戸田港～祭会場
へのルートの充実

安心・安全

人の流れの
仕組み作り

知ってもらう

SNS

注目度

商品開発



貯金箱

備後絣きんちゃく

「黒谷茶るま」

あなたに幸せを呼ぶ
三原神明たるま

三原神明の御朱印
1. 御朱印がある(緑色)
2. 御朱印が書いてある
3. 御朱印が書いてある
4. 御朱印が書いてある
5. 御朱印が書いてある

親睦会
2019年10月27日



コロナ禍での持続可能な地域活動のための

文化・情報基板創生プロジェクト

コロナ禍

ほとんどの
文化行事中止

発表の場がないため
文化サークルでは活動衰退

引きこもり
会話減少

地域活動全体が低迷, 住民間のコミュニケーション
が難しくなっている

広島大学

コロナ禍での持続可能な
文化活動の形・ 意見・情報交換の場を模索

土里夢創房あぐり

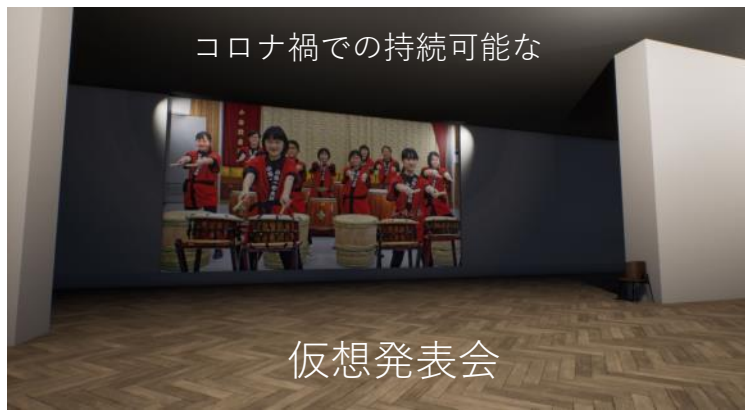
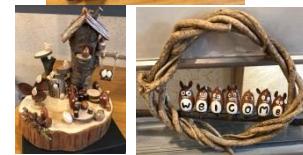
提案・体感

スマホやPC
意見・情報交換の場

コロナ禍での持続可能な

仮想発表会

仮想文化展示会⁶



中山間地域と大学を結び、世代を超えた学びの拠点を作ろう

— 中山間地域での持続可能な暮らしをめざして、地域の人たちと共に学び、地域を元気に —



ものづくりを楽しみ、ものづくりを通して学ぶ活動を進めてきた。この中で、地域の若者、学生、親世代、シニア世代などに様々な形で学びの場を提供してきた。



「縁もゆかりも」という、広島大学の学生有志で地域活動を行っている団体。現在は、志和堀の茅葺き民家の保全、活用のプロジェクトに取り組んでいる。

志和堀のほたる荘/つぐれば工房を拠点に、これまでの活動を継承しつつ、今年度は特に以下の活動を進めていきたい：

■ 地域の資源・素材を活かしたものづくりを暮らしに活かす

- 衣：草木染め、染料植物や綿の栽培・活用、織物、編み物
- 食：野草食、ハーブの栽培・活用、ジビエ料理
- 住：森林資源を使った木工、茅葺民家の保全と活用

SDGs 4, 12, 15



草木染め

■ ものづくりプロジェクトで新しい技術を学ぶ

- 電子工作/プログラミング/3Dプリンタ等の先端技術の活用
- ソーラー発電とICTによるスマート農業実験プロジェクト
- 学んだ技術を農業などの地域産業に活かす

SDGs 4, 7, 9



電子工作

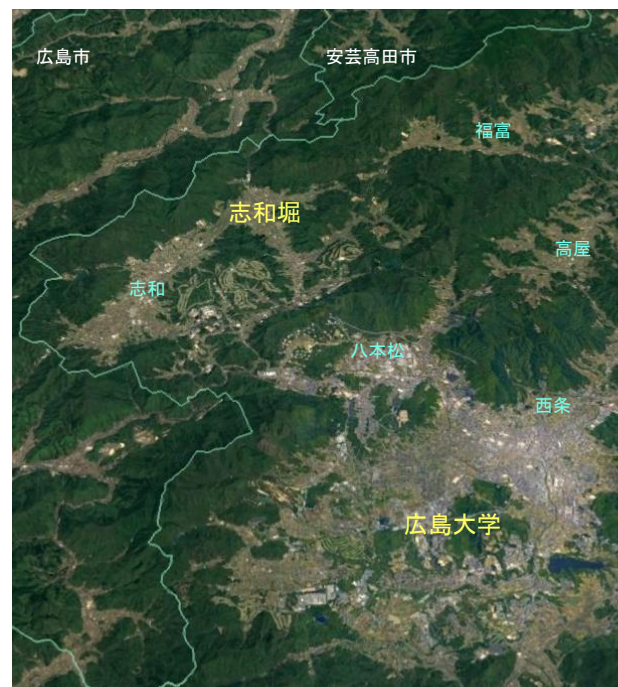
■ 誰もが生涯、学び続けられる地域を

- 自分の学びを自分で作る「つぐればジュニア」
- 小・中学生向けのものづくりワークショップ
- シニア世代向けのIT体験会
- ほたる荘を中心とした地域ライブラリー機能の拡充

SDGs 4, 11



ものづくりワークショップ



ほたる荘



ほたる荘

丸木位里と故郷・飯室 マップ作成、作品調査プロジェクト

丸木位里（1901-95）

安佐町飯室出身。原爆投下直後の広島を妻・赤松俊子（丸木俊）と主に描いた連作《原爆の図》の作者として知られる。

旧安芸飯室駅舎

廃線となった可部線の廃線敷の一部 や旧駅舎の保存活用。2017年から4回にわたって《原爆の図》の複製展示を実施。



マップ作成

- ・聞き取りや関連書籍による丸木位里ゆかりの地の抽出
- ・情報整理、マップ作成
- ・マップ配布と旧安芸飯室駅舎での掲示（→地域拠点化）

作品調査

- ・地域所有作品の調査（公民館、社寺、個人所有）



丸木位里「滝」（安佐公民館蔵）

展示と講演会

- ・郷土の画家再認識の機会として地元公民館に専門研究者を招き講演会を開催
- ・マップ作成の過程で得られた知見をまとめてパネル展示

地域と学生・教員の協働 地域の価値を再発見し次世代へつないでいく

丸木位里に関するマップ作りや講演会の実施、成果の展示を通じて

- ・郷土の画家を再認識し **地域で作品を保存** する
- ・高齢化により **記憶の伝承** が途切れないよう、**平和について考え話し合うきっかけづくり**
- ・平和発信の場としてアピールし、**安佐町への訪問者** を増やす

※画像出典
背景、作品「滝」：『ふるさとまち歩き 安佐町の魅力再発見』広島市安佐公民館運営委員会、2019年

島地域活性化「半学半創」ドキュメンタリー映画プロジェクト

田中 佐知男（潮祭実行委員会会長・代表） 渠 蒙（人間社会科学研究科 国際共創学科 助教） ナスル エラヘ（国際共創学科IGS学生代表、その他2~4年生5名以上）



大崎下島御手洗



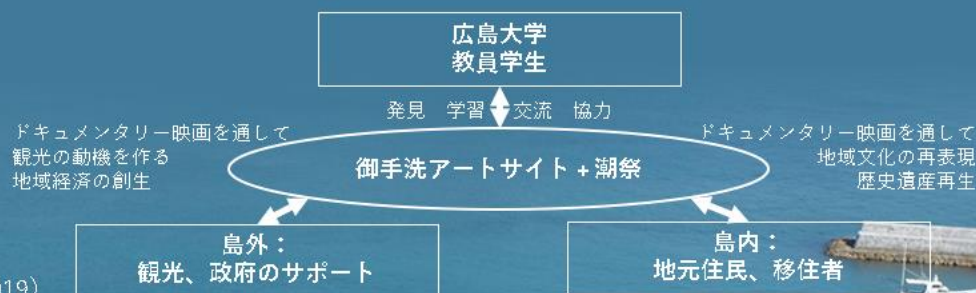
高齢者占比67.4 % (2019)

プロジェクトの目的（助成期間）

本プロジェクトの長期的な目的は、広島大学国際共創学科IGSの学生によるドキュメンタリー映画を通じた島地域文化主導の活性化することである。

活動内容

- 1). 調査研究：地域の歴史、文化、芸術に関することを勉強する。
- 2). アート作り：学生と島民一緒にドキュメンタリー映画を作る。
- 3). 発表段階：このプロジェクト中のすべてのアートワーク、アクションリサーチは、プロジェクト後に地域住民に展示される。



小原の憩いの場づくり 「小屋のデザインプロジェクト」

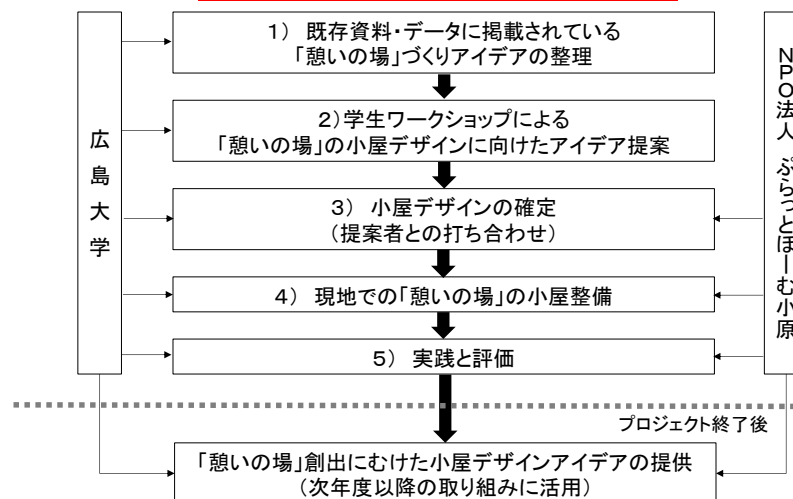
小原地域の将来イメージ
(2018年度「広島大学地域連携推進事業」で作成)

小建築のデザイン・施工
(2019年度「地域の元気応援プロジェクト」で作成)



本プロジェクトの進め方

これまでの成果を活用



申請者のグループの
これまでの経緯・成果

三段峡ミュージアム構想



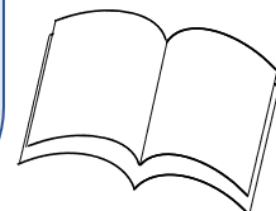
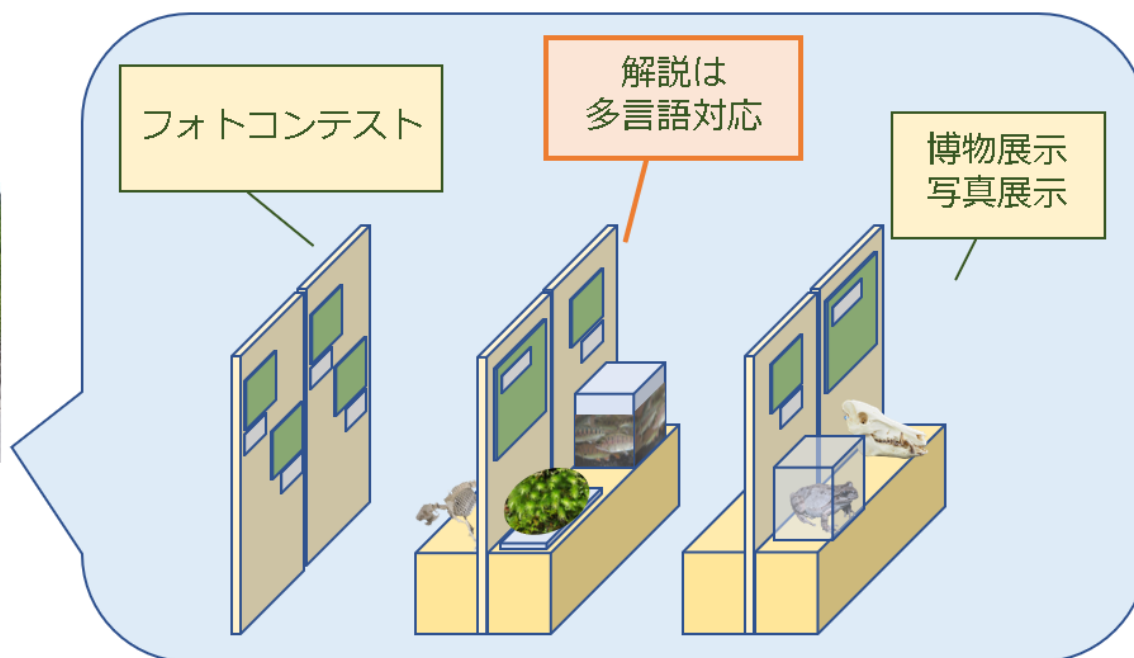
目的

- ①三段峡の魅力や楽しみ方を発信し、主体的な体験と学びの場として三段峡の新たな価値を確立
- ②地域の内外から三段峡の魅力を発見・発信する基盤を整え、地域全体の活性化を目指す

活動内容



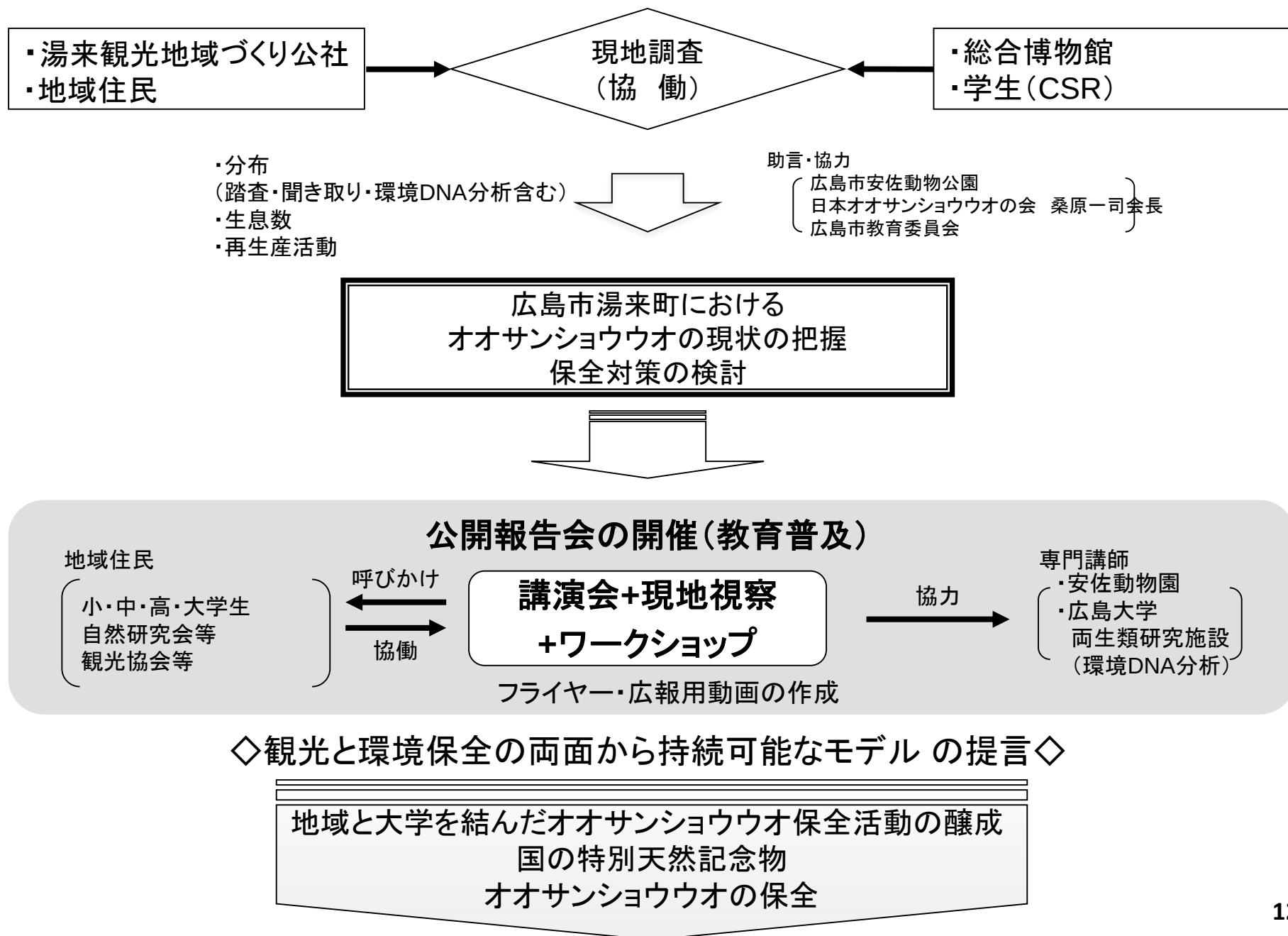
ビジターセンター



ノウハウのマニュアル化

展望

- ①博物館の持続的発展
- ②インバウンド対応のパンフレットとの関連付け
- ③学術的な情報の蓄積



『移住体験ツアーの開発 × とびしまライフ』

移住希望者、又は、地域ともっと深い関係を持ちたい人向けの「**移住体験ツアー**」の開発と実施を実現したいです。とびしま海道の**USPs(Unique Selling Points)**を学生の目線で再発見し、それに基づいた移住体験ツアーのコンテンツを開発したいと思っております。



とびしま海道は、広島県内で高齢化率が非常に高い（52%～70%）地域となります。とびしま海道のコミュニティの持続性や回復力（resilience）がある未来を確保するためには、移住者を増やす必要があります。

プロジェクトの経緯と目的

とびしま海道の移住者率はまだ少なく、まだまだ理想な移住先として、全国的に認識されていません。とびしま海道の移住者仲間が「**とびしまライフ**」を2020年5月に立ち上げ、とびしま海道の移住促進や移住希望者のサポートを行なっています。とびしまライフアドバイザー10人の内の5人は、現役の地域おこし協力隊でもあります。とびしまライフは移住希望者を集めるイベントや移住体験ツアーを企画するつもりです。しかし、この団体は最近設立された為、移住体験ツアーに含むコンテンツや体験について十分検討できていません。**広島大学がとびしまライフと連携し、学生や教員がとびしま海道の魅力やUSPを新鮮な視点から発見し、それをベースに移住体験ツアーのコンテンツを開発する事が望めます。**

地域団体: とびしまライフ（代表 宮川トム）

教員・提案責任者: Zollet Simona(助教)、産学連携推進部、岩本 洋子(准教授)、大学院統合生命科学研究科

学生チーム: 田中春香(代表)、片山開貴、隅田 全、吉田 淳樹（広島大学校友会学生チーム代表; 広島大学ボランティア団体アイリス代表; ぐっけみ代表; 地域盛り上げ隊「たのした」）



www.tobishimalife.net

プロジェクトの活動内容

- ① 学生がインタビューや現地訪問を通じ、**移住者視点からのとびしま海道の生活課題等を調査します。**学生は主導的に、現地の移住者や地元関係者に伺う質問の内容を作成し、移住促進に関する重要な課題を洗い出します。さらに、現地訪問でとびしま海道の生活、風景、コミュニティの特徴を肌で感じます。
- ② 学生がとびしまライフのアドバイザーと協力し、フィールドワークを元に**移住体験ツアーのコンテンツを開発します。**広島大学の教員は、全体のコーディネーション及び移住に関する専門知識を提供します。

プロジェクトの成果の活用

主な成果物 → **移住体験ツアー**と関連する資料（パンフレット、動画、オンラインコンテンツ等）の開発。とびしまライフの今後の活動においても、プロジェクトの成果物を活用します。

島のコミュニティの未来を支える移住者との連携、学生の創造性、教員の専門知識が全て結ばれることで、地域の潜在的な可能性や、とびしま海道での生活の魅力もより明確になります。この観点から、**地域活性化に関連するSDGs、特にSDG11（住み続けられるまちづくりを）とSDG 17（パートナーシップで目標を達成しよう）の推進にも貢献できます。**

「みんなの夢アイディア」の実現で 「呉をワンダーランドに！」

街に夢とアイディアが溢れ、
安心安全で楽しく豊かな
ワンダーランドへ！



夢アイディア
実現



異分野融合
による具現化
(呉・広島大学)

マッチング
活動
(呉・広島大学)

次世代型
アドバイス
イベント
(呉)

みんなの夢アイディアコンテスト



社会の
課題



久比地区の水利用等住環境に関するサステナビリティの確立のための広島大学の瀬戸内拠点造り (水利用実践編)

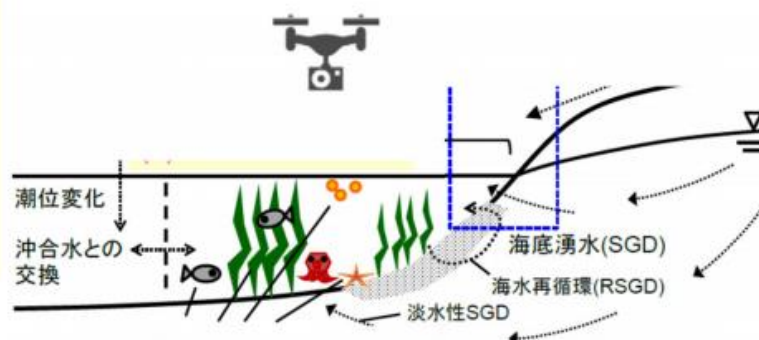
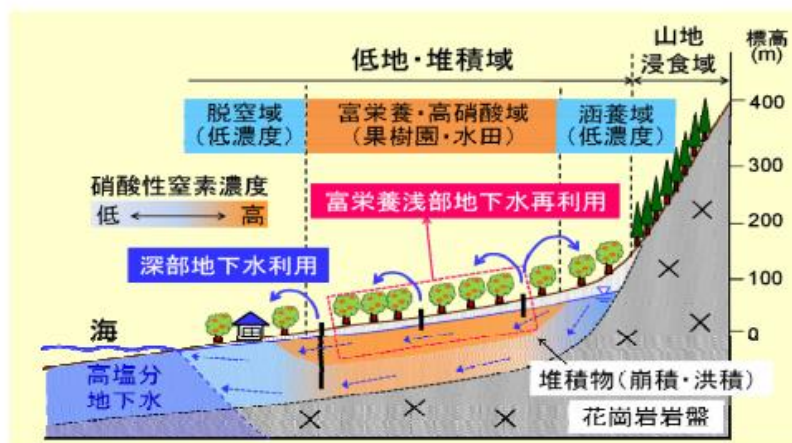
一般社団法人まめな

広島大学小野寺研究室

上流域: 森林エリア

中流域: 果樹園エリア

下流域: 宅地エリア



1) 水利用の実践プロジェクト

- ① スプリンクラーでの散水(園芸、打ち水)
- ② 風呂、洗濯、トイレでの利用
- ③ そのための揚水能力試験と水質変化調査

2) 沿岸環境への影響調査

- ① 藻場調査(ドローン撮影)